

小学部「音楽」学習指導案

1. 日時 令和7年10月10日（金） 第3時限（10:00～10:40）
2. 場所 音楽室3
3. 学部・学年・組 小学部第3学年 13人
4. 単元（題材）名 「教員や友だちと一緒に音楽を楽しみ、自分なりに表現しよう」
5. 単元（題材）目標
 - ・教員や友だちと一緒に音楽に合わせて楽器を鳴らしたり、身体を動かしたりすることができるようにする。【知識及び技能】
 - ・音や音楽に気付き、自分なりに楽器や身体で表現することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
 - ・音や音楽に興味を持ち、教員や友だちと一緒に活動を楽しむことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

6. 児童観 【略】

7. 教材観

『幸せなら手をたたこう』（器楽）（リズム表現）

音楽では、大きく「器楽」「身体表現」に分けて授業を展開している。前期では『アイアイ』や『バスごっこ』に合わせてタンブリンや鈴を鳴らす活動に取り組んだ。『アイアイ』は、まずはリズムを感じながら選んだ楽器を鳴らすことを目標として設定した。『バスごっこ』では「おとなりへ、はい！」という歌詞に合わせて手やタンブリンを鳴らす活動に取り組んだ。

本時では、身体を使ったリズム表現を目標として『幸せなら手をたたこう』に取り組む。繰り返しの言葉が多く、歌詞の区切りに2拍の明快なリズムが付いていることで、学習指導要領小学部1段階の児童にとってもリズムが掴みやすい特徴がある。「しあわせなら」に続けて友だちの肩に触れたり、楽器を鳴らしたりする。リズムに合わせて友だちに触れたり、友だちの演奏している姿を見たりすることで、みんなで一緒に活動しているという感じることが期待される。器楽においては、まずは手や足などを鳴らし、リズムに慣れてきたらタンブリンを用いて表現していく。ここでは、友だちや教員と一緒に身体や楽器を鳴らしてみんなで楽しむことをねらいとする。

『ジャングルぐるぐる』（身体表現）

前期では『バナナくん体操』や『パイナポー体操』に取り組んだ。本授業では、音楽に合わせた身体表現を目標として『ジャングルぐるぐる』を設定する。アップテンポで明るい雰囲気、わかりやすい振付が児童にとっての楽しさに繋がりやすいと考える。また、曲の中に繰り返される動作があるため、動きを通じて児童が見通しを持てたり、コミュニケーションを取る際に、自分なりに表現したりすることができる。楽曲の中で歌詞と動きが連動するため、教員のかけ声に合わせて模倣することができる。児童が意欲をもって取り組むことができると考える。楽曲の中で友だちや教員と手をつないでジャンプしたり、走ったりする場面があり、身体表現をしながら友だちとの繋がりを意識してもらいたい。音楽が流れる楽しい雰囲気の中で、粗大運動に課題があっても教員や友だちと一緒に自分なりの方法で音楽のリズムに合わせた身体表現をすることを目標とし、本題材を設定する。

8. 指導観

本授業では、音や音楽を感じながら身体や楽器を用いて表現する楽しさや、その楽しさを友だちや教員と一緒に感じられることを目標としている。児童が楽しいと感じられるように、教員自身が明るく楽しい雰囲気の中で授業を行い、児童ができたことや、やろうとする姿勢を褒めて、児童の自信や意欲に繋げたい。また、友だちが前に出て手本を示したり、揃って身体表現をしたりするなど、一緒に活動しているという意識をもてるように展開する。活動については、発声練習、器楽、身体表現に取り組む。児童が授業の流れを知り、活動に見通しをもつことができるように、授業の始めに本時の流れを提示する。タブレット端末に活動内容を言葉とイラストで表示し、活動が終わったものは画面からなくしていくことで、授業の進行具合がわかるようにする。また、発声練習やおわりの歌は一年間を通して取り組み、定着を図る。活動を繰り返して行うことで見通しがもてるようになり、児童が主体的に活動に参加することができ、音楽表現への自信へ繋げていきたい。

器楽では、楽器に親しみをもってもらいたい。前期では、自分で選んだ楽器を楽しみながら自分なりの方法で表現することを目標としたが、本単元では、決まったリズムをみんなで揃えて鳴らすこと、音楽をきいて自分なりの方法で鳴らすことを目標とする。リズム打ちは2段階の目標となるが、『幸せなら手をたたこう』は単調な2拍のリズムが特徴であるため、1段階の一部の児童にもリズムに合わせて鳴らすことを目標として設定した。「タン、タン」等の擬音語を用いてタイミングを示し、リズムに合わせて手や足、楽器を鳴らすように教員が合図を出す。2段階の児童については、休符を意識できるように練習を進める。段階別に3つのグループに分けており、練習前にグループごとに目標を確認する。その際に、手本として各グループから1人が手本を示す。発達段階がより幼い児童については、楽器の音に気付くことを目標として活動を行う。また、「幸せなら」に続けて隣に座っている友だちの体に触れるリズム表現活動を行う。教員と児童の一対一の関係だけでなく、友だち同士の繋がりを意識したい。

身体表現では、音楽に合わせて友だちや教員と一緒に身体を動かす楽しさを感じてもらいたい。『ジャングルぐるぐる』では、友だちと手を繋いでジャンプをしたり、走ったりする場面がある。1人になる児童がいないよう、周りにいる友だちを誘うことを事前に児童と確認する。活動中は児童同士の繋がりを大切にできるように、言葉かけをしながら支援する。教員が中心に立って手本を示し、児童が輪になる形を取り、前後を定めないことで歌詞に合わせた自由な表現ができるようにする。また、振付の動きを言語化したり、「せーの」等掛け声をかけたりすることで、みんなで動きを合わせることができるようにする。楽しい雰囲気の中で活動できるよう、教員が明るい雰囲気であることを常に心掛けたい。

その他、授業で使用するベンチの準備や片付けを児童が行い、環境を整えることを意識できるようにする。使用した楽器をかごに戻す際には、優しく扱うことを伝え、物を丁寧に扱う姿勢を少しずつ身に付けられるようにする。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①-1 楽器を自分なりの方法で鳴らすことができる。 ①-2 リズムに合わせて楽器を鳴らすことができる。	①-1 音楽のリズムに気付いている。 ①-2 音や音楽をきいて、リズムを感じ取り楽器や身体の動きで表現している。	① 音楽活動に興味や関心を持ち、教員や友だちと楽しんでいる。 ② 音楽を感じながら、主体的に楽器や身体の動きで表現しようとしている。 ③ 友だちの活動に注目している。
②-1 流れている音楽に気づき、意識を向けることができる。 ②-2 手本の動きを見て、楽曲に合わせて友だちと一緒に身体を動かすことができる。	② 身体表現を通して、音楽の楽しさに気付いている。	

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全9時間、本時は第8時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 次	1 ～ 4	○器楽 ・『幸せなら手をたたこう』	・楽曲を聴き、全員で「手をたたこう」「足鳴らそう」を表現する。 ・鳴らしたい身体の部位を選択し、全員で表現する。	・楽曲に合わせて教員が歌いながら身振りをする。 ・電子黒板に選択肢を示す。 ・選んだ児童に前で手本を示すように促す。	B①-1 B①-2 (行動の観察) C③ (行動の観察)
		○身体表現 ・『ジャングルぐるぐる』	・楽曲に合わせて身体表現に取り組む。	・教員が前で手本を示す。 ・電子黒板に動画を流して児童が興味をもてるようにする。	A②-1 A②-2 (行動の観察) B② (行動の観察)
2 次	5 ～ 9	○器楽 ・『幸せなら手をたたこう』	・楽器の名前や片付け方の確認をする。 ・鳴らすグループを発表し、目標を確認する。	・電子黒板に示す。	

			・楽曲に合わせてグループごとにタンブリンを鳴らす。 ・全員でタンブリンを鳴らす。	・児童の鳴らす様子を褒めたり、教員も歌ったり楽器を鳴らしたりして、楽しんで活動できる雰囲気を作る。	A①-1 A①-2 (行動の観察)
		○身体表現 ・『ジャングルぐるぐる』	・肩の場所を確認する。 ・練習する。 ・歌に合わせて隣の人と触れ合う。	・歌詞を当てはめて歌を歌う。 ・友だちを意識できるように手本を見せたり、手を取って一緒に肩に触れたりする。	C① C② C③ (行動の観察)
			・友だちと手を繋ぐ場面の約束を確認する。 ・友だちを探す練習をする。 ・楽曲に合わせて身体表現に取り組む。	・中心に立ち、手本を示す。 ・友だちを探す場面では合図をする。	A②-1 A②-2 (行動の観察) C① C② (行動の観察)

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・音や音楽に気付き、楽器を用いて自分なりに表現することができる。【知識及び技能】
- ・楽曲のリズムを感じながら友だちと一緒に身体を動かすことができる。
【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の評価規準

- ・楽器の音に気付き、触ったり鳴らしたりできる。【知識・技能】(A①-1)
- ・楽曲のリズムに合わせて楽器を鳴らすことができる。【知識・技能】(A①-2)
- ・音や音楽に気付き、自分なりに楽器や身体の動きで表現することができる。
【思考・判断・表現】(B①-1, B①-2)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・発声練習『こえのたいそう あ行』
- ・器楽『幸せなら手をたたこう』
- ・身体表現 『ジャングルぐるぐる』
- ・電子黒板、タブレット端末
- ・タンブリン、かご

(4) 児童の実態と本時の目標 【略】

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導入	○準備 ・自分たちでベンチを並べる。 ○始めのあいさつ ・前に出た児童の合図で始めのあいさつをする。 ○本時の予定を確認 ・電子黒板を見て、本時で行うことを確認する。	・座席表を電子黒板に示しておく。 ・みんなで準備ができるよう言葉かけをする。 ・前で挨拶をしたい人を募り、手をあげた児童に前で並ぶよう促す。 ・見通しがもてるよう、本時の授業内容を電子黒板に映し、一緒に確認する。	
25分 展開	○発声練習『こえのたいそう あ行』 ・口の形を意識して「あいうえお」を言う。 ○器楽『幸せなら手をたたこう』 ・楽器の名前を確認する。 ・楽器の丁寧な片付け方を確認する。 ・電子黒板を見て、自分の顔写真が出たら前に出る。 ・本時の目標を確認する。 ・グループごとに前に立ち、楽曲に合わせてタンブリンを鳴らす。	・発声のタイミングに合わせて合図を出す。 ・口の形を意識するよう言葉かけをする。 ・児童の前で手本を示す。 ・楽器は優しく片付けることを一緒に確認する。 ・電子黒板に顔写真を示し、一緒に鳴らすグループごとにメンバーを発表する。 ・そのグループの本時での目標を発表する。 ・手本として T1 が一緒に楽器を鳴らす。 ・鳴らす、止まるを目標としている児童には、止まるを意識できるよう、一人ひとりの目の前で手本を見せたり、合図をしたりする。 ・リズムに合わせて鳴らすことが目標の児童には、一人ひとりの目の前で手本を示しながら口頭でタイミングを示す。	A①-1, ①-2 (行動の観察) B①-1, ①-2 (行動の観察) C②, ③ (行動の観察)

	・待っている児童はその場で手を鳴らしたり、鑑賞したりする。 ・タンブリンをかごに片付ける。 ・全員でタンブリンを鳴らす。 ・肩の場所をみんなで確認する。 ・友だちの肩をたたく練習する。 ・歌に合わせて友だちと触れ合う。 ○身体表現『ジャングルぐるぐる』 ・友だちと手を繋ぐ場面の約束を確認する。 ・ぶつからない場所に広がる。 ・楽曲に合わせて身体表現をする。	・待っている児童に対し、一緒にリズムに合わせて手を叩いたり、友だちの様子を見るような言葉かけをしたりする。 ・優しくかごに入れるように言葉をかける。 ・前で手本を示しながら、リズムを意識できるように歌ったり、擬音語を用いて鳴らすタイミングを提示したりする。 ・友だちを意識できるように言葉かけをする。 ・手本を見せたり、手を取って一緒に友だちの肩に触れたりする。 ・「○○のときはどうするんだった？」など前時までにやったことを思い出させる言葉かけをする。 ・ベンチを音楽室の端に移動させる。 ・楽曲に合わせて教員が手本を示す。笑顔で取り組み、楽しめるような雰囲気を作る。 ・動きを言語化して伝える。 ・友だちを探す場面では、合図をする。	A②-1, ②-2 (行動の観察) B② (行動の観察) C①, ② (行動の観察)
10分 まとめ	○振り返り ・写真や動画を見て、今日行ったことを振り返る。 ○終わりの歌 ・終わりの歌を歌う。 ○終わりのあいさつ ・前に出た児童の合図で終わりのあいさつをする。 ○片付け ・自分たちでベンチを片付ける。	・活動中に撮った動画や写真を電子黒板に提示し、表現を褒めたり共有したりすることで児童の自信や今後の意欲へ繋げる。 ・毎回、みんなで取り組むことで授業の流れを確立する。 ・前で挨拶をしたい人を募り、手をあげた児童に前で並ぶよう促す。 ・みんなで協力してベンチを片付けるように言葉かけをする。	C③ (行動の観察)

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

